

地域・在宅看護論

【地域・在宅看護論の考え方】

在宅看護の対象は小児から高齢者までと幅広い年齢層で、人々が生活している地域や、在宅において多様な場で看護を提供するものである。予防的ケアから健康の維持回復を目指すケア、安らかな死に至るまでのケアと、幅広い健康レベルを対象とした看護である。地域に暮らす人々のパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する必要がある。

近年、入院期間の短縮により在宅にて生活と治療を維持、継続していかなければならず、在宅看護においても医療機関と同レベルの医療、看護の提供が求められている。

社会の変化から、健康な介助を必要としない人々、地域で暮らすすべての人々を看護の対象とし「自助」「互助」を支援する必要がある、地域を意識して拡大していく必要がある。

看護師は診療の補助と日常生活援助の視点をもつ必要がある職種である。在宅看護ではチーム全体の調整役としての役割が大きく多職種連携も重要である。

〔 目的 〕

地域・在宅で生活しながら療養する人々と家族を理解し、在宅援助方法の能力を養う。

〔 目標 〕

1. 地域・在宅看護の社会的背景を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々と家族の看護の必要性が理解できる。
2. 地域・在宅看護の実践に必要な日常生活援助技術の方法が理解できる。
3. 医療依存度の高い在宅療養者の看護の方法が理解できる。
4. 地域・在宅で生活する療養者の看護過程の展開方法が理解できる。

【構成及び計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1年	2年	3年	
在宅看護概論Ⅰ	1	30	30			講義
在宅看護概論Ⅱ	1	15	15			講義・見学
在宅療養者と日常生活援助技術(Ⅰ)	1	30		30		講義・演習
在宅療養者と日常生活援助技術(Ⅱ)	1	30		30		講義・見学
在宅療養者の状態別看護	1	15		15		
在宅療養者の「事例演習」	1	15		15		
	6	135	45	90		

地域・在宅看護論実習

臨地実習

実習科目	実習内容	単位(時間)	時期
地域・在宅看護論実習Ⅰ ＊保健福祉センター： 4日間 ＊シルバーフラット： 1日間 ＊救急車：2日間	◎地域で暮らす高齢者の 実際を理解する ＊シルバーフラット ＊デイサービス ＊市役所 ＊保健福祉センター (＊救急車)	1 (45)	3年次前期
地域・在宅看護論実習Ⅱ ＊訪問看護ステーション： ＊7日間～8日間を予定し ている！ ＊地域包括支援センター： 3日間～4日間	◎健康障害がある療養者・ 家族の看護の実際を理 解する ◎多職種連携実習 ＊地域包括 ＊訪問看護ステーション	2 (90)	3年次後期
		3 (135)	

地域・在宅看護論実習Ⅰ 1単位45時間

- 〔 目的 〕 地域・在宅で生活する人々の、保健、医療、福祉の役割に必要な基礎的な知識を養う。
- 〔 目標 〕
1. 地域で生活する人々の生活、健康に対するニーズが理解できる
 2. 地域で生活する人々の生活支援について理解できる
 3. 地域で生活する人々の関係機関との連携について理解できる
 4. 看護学生として節度ある態度で実習に臨むことができる

地域・在宅看護論実習Ⅱ 2単位90時間

- 〔 目的 〕 地域・在宅で療養、生活する人々、家族の発達段階に応じた看護の実践ができる基礎的な能力を養う
- 〔 目標 〕
1. 地域・在宅で療養する療養者、家族の健康状態や生活状況を総合的に理解できる
 2. 地域・在宅で療養、生活する人々の自立に向けた援助が理解できる
 3. 在宅で介護する家族の役割を知り、家族のセルフケア能力を支える必要性が理解できる
 4. 地域・在宅で療養、生活する人々に必要な社会資源の活用を理解できる
 5. 地域・在宅で療養、生活する人々及び家族の状況に応じた看護の実践が理解できる
 6. 看護学生として節度ある態度で実習に臨むことができる

科目名	在宅看護概論 I	講師	平本 智絵 他	単位数	1
				時間数	30
<p>科目目的 :在宅看護の歴史や地域で暮らす人々とその家族の在宅看護に必要な基礎的知識を学ぶ。 地域での暮らしを支える看護の役割を具体的に考えることができる。</p> <p>科目目標: 1. 地域在宅看護の概念と意義について理解できる。 2. 多様な場でのあらゆる対象の暮らしを支える看護師の役割、社会資源について理解できる。 3. 訪問看護制度の基本、訪問看護ステーションの概要が理解できる。 4. 家族、地域コミュニティも対象としてとらえることができる。 5. 地域包括システムの中での多職種連携を理解し、地域で求められる看護師の役割を考えることができる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1～2回	1. 地域・在宅看護	1) 地域在宅看護とは 2) 地域在宅看護の背景 3) 在宅看護の対象と場 4) 在宅看護で大切にすべき姿勢 5) 在宅看護における倫理			
3～9回	2. 訪問看護の実際	1) 訪問看護ステーションの概要 2) 訪問看護師の役割			
10～11回	3. 暮らしを支える社会資源	1) 介護保険・医療保険制度 2) 公費負担制度 3) フォーマルサービス・インフォーマルサービス 4) 訪問看護制度			
12回	4. 多様な場と職種で支える	1) 地域在宅の場 2) 多職種連携と協働(医療専門職・介護専門職) 3) ケアマネジメント			
13～14回	5. 在宅支援における家族支援	1) わが国の家族の変遷と特徴 2) 家族システム 3) 療養者を支える家族 4) パートナーシップ 5) 在宅看護における家族への援助			
評価	筆記試験 見学記録				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践(医学書院)				
備考					

科目名	在宅看護概論Ⅱ	講師	平本 智絵 他	単位数	1
				時間数	15
<p>科目目的:地域で健康に暮らすとはを具体的に考え、地域在宅看護に活用できる八王子市の制度を理解することができる。</p> <p>科目目標 :1. 地域で暮らす人々の暮らしを理解し、暮らしの中での健康をとらえることができる 2. 八王子市における暮らしを支える制度を理解する</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1回	1. 人々の暮らしと健康	1)暮らしとは 2)健康とは			
2～3回	2. 地域包括ケアシステム	1)地域包括ケアシステムの必要性と目的・機能と構成 2)地域包括支援センターの機能 3)地域包括ケアシステムづくり 3)地域包括ケアシステムづくりの実際			
4～7回	3. 八王子市の暮らしと健康を支える制度	1)八王子市の地域特性 2)八王子市の生活と健康を支える取り組み 3)八王子市の生活マップの作成			
評価	筆記試験 GW 発表 出席状況				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院)				
備考	□				

科目名	在宅療養者の日常生活援助技術 I	講師	猪貝 幸恵 他	単位数	1
				時間数	30
<p>科目目的 : 地域在宅でのその人らしい暮らしの継続、QOLの維持・向上に向けた看護の基本を学ぶ</p> <p>科目目標 : 1. 在宅看護に必要な日常生活援助の方法が理解できる。</p> <p>2. 在宅看護の対象・場の特徴を踏まえ、暮らしのあった日常生活援助を考えることができる</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1～2回	1. 在宅療養移行期の看護	1) 退院支援 2) 地域連携室、地域がん診療連携拠点病 3) 初回訪問			
3回	2. 日常生活を支える技術(食)	1) 在宅における食事のアセスメント 2) 経管栄養(PEG)、HPN(C Vポート)			
4～5回	3. 日常生活を支える技術(排泄)	1) 在宅における排泄のアセスメント 2) 膀胱留置カテーテル 3) 摘便			
6～7回	4. 日常生活を支える技術 (活動、睡眠・休息)	1) 睡眠・休息・生活動作のアセスメント 2) 在宅の場での移乗・移動 3) 生活リズム、休息と活動のバランス			
8～10回	5. 日常生活を支える技術(清潔)	1) 清潔のアセスメント 2) 在宅での清潔援助の実際(洗髪) 3) フットケア、爪の手入れ 4) 褥瘡、スキンケア			
11回	6. 呼吸を助ける援助技術	1) 在宅酸素療法 2) 在宅人工呼吸療法			
12～14回	7. 国際福祉機器展見学	1) 福祉機器、福祉用具			
評価	筆記試験 レポート課題 発表内容				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院)				
備考					

